

新聞から社会につながる感覚を育てる

～新聞に書かれていることを理解し、生活の中に情報を生かし、自分なりの考えをもてる子どもを育てるにはどうあったらよいか～

飯山市立木島小学校 簾田 典彦

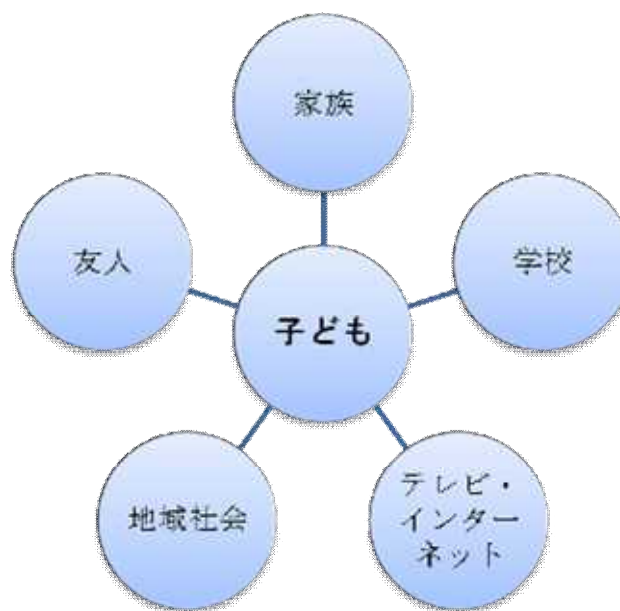
I 研究テーマ

子どもにとって家族、友だち、学校や地域が身近に感じる社会であり、「今日は、誰と遊ぼうかな。」「何を食べようかな。」など身の回りの事について子どもは絶えず考えている。子どもにとってニュースで流れる映像や新聞に書かれていることに関心はもちづらい。しかし、社会で何が起きているのか、今何が問題になっているのか、子どもにも知ってほしいと思う気持ちは強い。

そこで、子どもと社会をどうつなぐのかと考えたときに新聞はとても有効なメディアである。その理由は、情報の受け手のペースで必要な情報を取捨選択できるからである。

本研究では、子どもに「新聞から社会につながる感覚をどう育てるか。」というテーマを設定して、新聞を利用することで初めて知ることや新しいことを発見する経験を通して、今まで関心がなかったことに関心がもてたり、知っていたけれどさらに知りたいと思ったりすることを目指とした。事実を認識することと、それを自分なりに理解することは大きく違う。子どもにとって事実を知ることだけでは「へえ～そうなの。それで…」になってしまう。なぜ、そこで思考が止まってしまうかといえば、それは「自分には関係ない。」「その事実は知っても、自分の生活に変化はない。」という感覚があるからだろう。そこにどう切り込むかが本研究の課題である。子どもが何かを知り、考えることで社会にコミットメントしている感覚をもたせたい。自分は社会の一員であるという思いや同じ社会で生きているという認識が醸成されることを願う。

子どもを取り巻く環境



Ⅱ 実践の内容



新聞を見る子どもたち



1 新聞にふれる ～新聞スピーチ～

1学期に毎日2人ずつ新聞の切り抜きをして、気になった記事を紹介する活動を行った。この活動は新聞に対する興味や関心を喚起することと、国語学習における「話すこと・聞くこと」の力を育てる目的で新聞を活用した実践の導入部分とした。新聞には様々な情報がある。「こんなことが載っていたよ。」「この事件があったんだ。」など、自分の感じたことや友達に伝えたいことが新聞にはある。新聞スピーチでは、新聞のどんな記事でもよいこととして、子どもが新聞に親しみ、新聞を読む中から、自分の

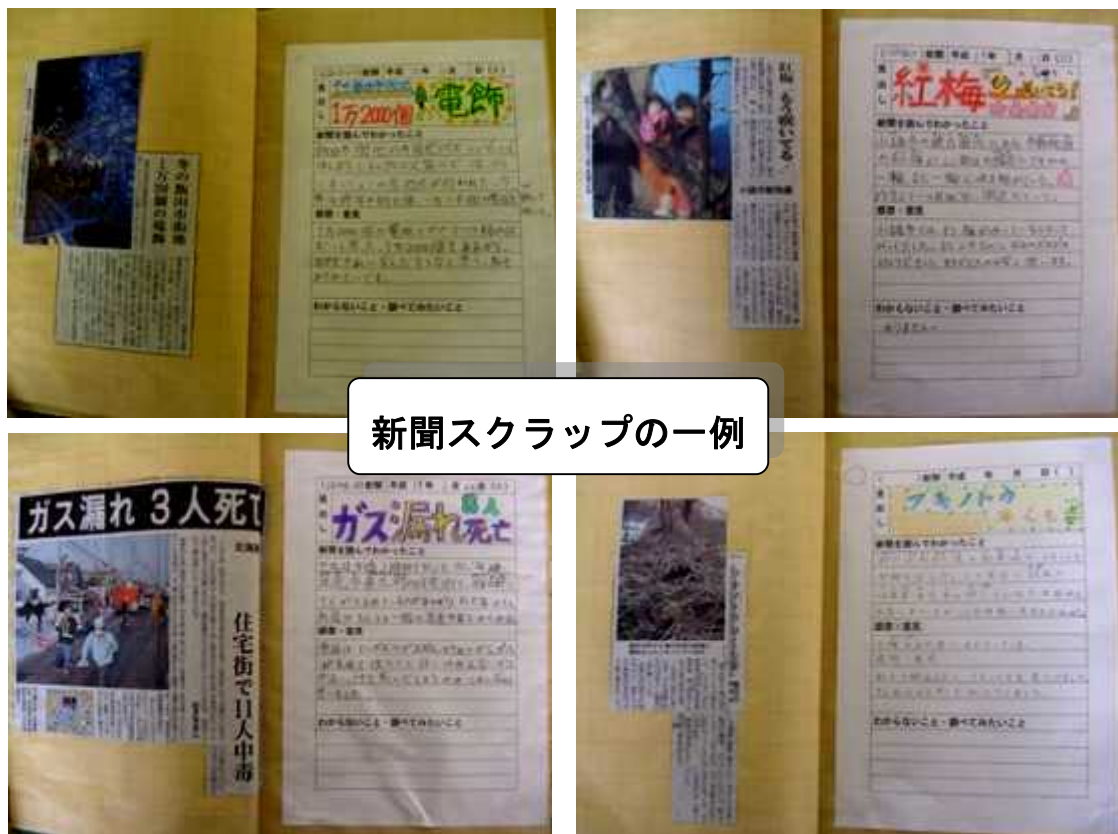
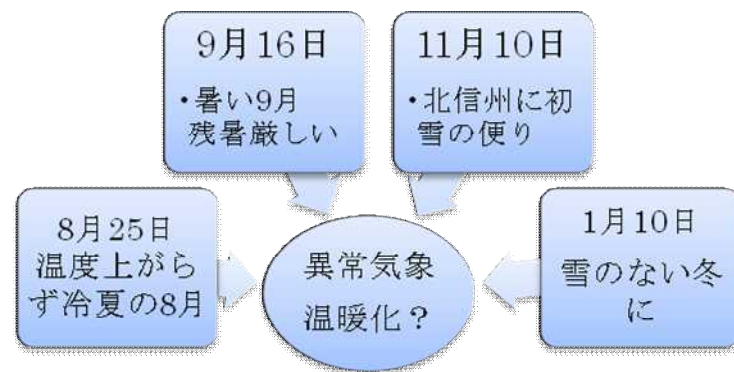


興味や関心のある記事を選び、考えたことを伝え合うことで、新聞を通じた思いの共有を図ることをねらいとした。

2 ほしい情報を集める ～新聞スクラップ～

2学期からは、子どもたちに好きな新聞記事を集めるように指示をした。新聞スピーチに加え、自分の興味のある記事や分野を絞り、継続して記事を集める活動を行った。この活動は、とにかく単発になりがちな新聞を読む活動1つ1つをつなぎ合わせ、そこから情報の連続性に目をつけさせることが目的である。

例えば、季節をテーマにした記事を集める子どもは季節ごとの記事を集めスクラップにしていく。1つ1つの記事だけでは分からない連続性や傾向などが見えてくる。1つ1つの事実への関心や興味から事実の積み重ねによる新たな視点を獲得していくことができる。



3 情報をまとめる ～身近な地域をとらえなおす～

子たちは、自分の住んでいる市のことをどのくらい知っているのだろう。住んでいるからこそ実感できること住んでいるとわかりづらいことがある。そこで、11月は地元の飯山市に焦点をあて、飯山市に関する記事だけを6紙(信濃毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞)からあるだけ探し出し、それを飯山市の地図の上に貼り付ける活動を行った。どの新聞にも長野県や地元の記事が載るページあることを知った子どもはそのページを中心に飯山市について書かれている記事を探した。

この活動は、地図の上に記事を落とし込んでいくことで視覚的に飯山市をとらえることができるのが利点である。集まった情報をどのように処理するのかは、とても難しいことである。図や表にすることで、集まった情報の傾向を見つけ出し、特徴づけることができるようになる。



- 11月の特徴 ①市議会選挙の記事が多いことがわかる。
②鍋倉山など自然に関する記事が多い。

4 伝えたいことを発信する ～身近な話題を新聞にする～

新聞には自分の知らない世界が広がっていて、驚きや喜びがそこにはある。子どもたちは、新聞スピーチやスクラップにする活動を通して新聞に親しみ新聞の情報を自分の生活に関わらせることができるようになってきた。12月には、子ども自身が身近な驚きや発見をすることで、自分たちなりの発信をする活動を行った。この活動は情報の送り手としての自分を意識して取材したり調べたりすることで、情報の取捨選択や正確性の確保など学ぶことができる活動である。詳細は実践の姿をお読みいただきたい。

Ⅲ 具体的な実践の姿 本研究の中心的な単元として、国語の学習の「工夫して発信しよう」を設定した。この単元では書かれていることを理解する力を高め、要旨をつかみ、身近な疑問を調べ、新聞記事にして発信することを目指した。以下にこの単元の展開を紹介する。

国語「工夫して発信しよう」～「ニュース番組作りの現場から」を読んで～

ステップ1（第1時～第3時）

目標：国語の教材文「ニュース番組作りの現場から」を読んで感想をもち、書かれている内容を整理する。

学習内容：①ニュースや新聞を見た経験をもと、その感想を発表し合う。
②教材文を読み、初めて知ったことや興味をもったことを書く。
③ニュースができるまで過程が時間の順序を追って書かれていることをつかむ。

ステップ2（第4時～第6時）

目標：教材文の要旨をつかみ、この後の活動を予想しながら、大事なことをや気をつけることを読み取ることができる。

学習内容：①ニュースがどんなきっかけで作り始められるのか読む。
②ニュース作りにはスタッフ間の協力があることを知る。
③ニュース作りの過程で、大事なことをや気をつけることを中心に読んでまとめる。

ステップ3（第7時～第8時）

目標：目的意識をもって、自分たちの「伝えたいこと」の企画を考えることができる。

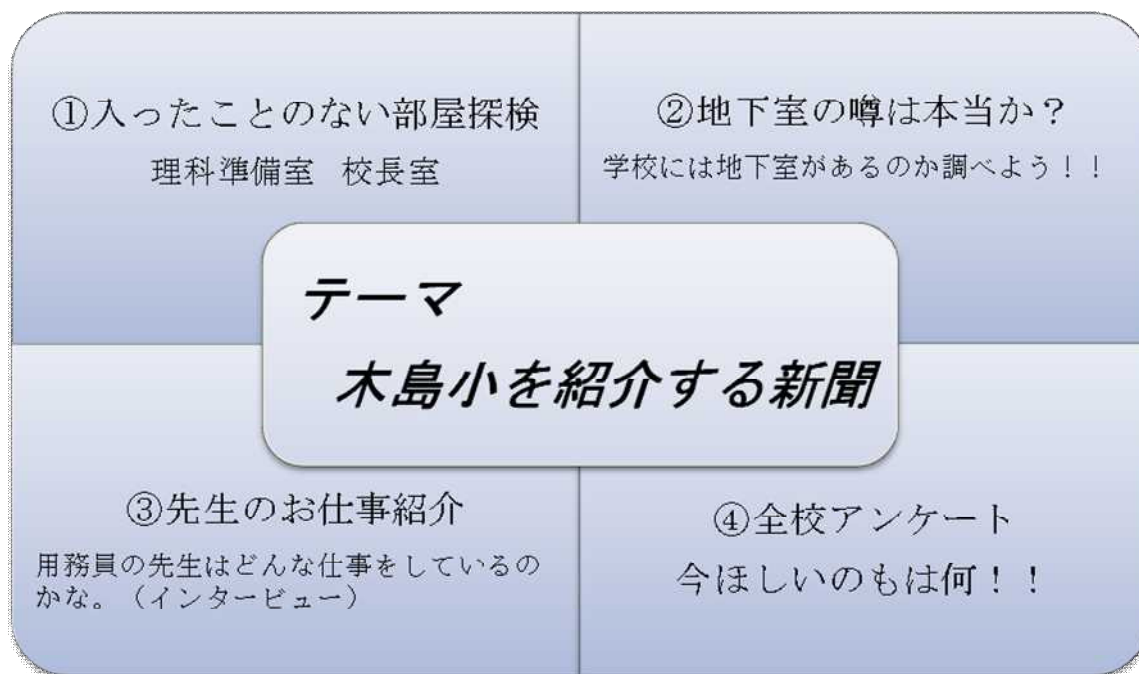
学習内容：①自分がニュースをつくるならどんな内容にしたいか考え、話し合う。
②「私たちの学校」というテーマで企画を考える。

ステップ4（第9時～第12時）

目標：必要なことを取材し伝えたいことを明確に伝えるように発信することができる。

学習内容：①身近な疑問や調べたいことを出し合い、取材する。
②取材したことを編集して、記事にする。
③情報を発信して、感想を交流させる。

この単位では、取材すること、まとめること、発信することの3つ重点をおき単元を展開した。各グループでテーマを話し合い、どんな話題にするのか、必要な材料は何か、どんなまとめ方をするのかを決めた。下記はあるグループのテーマと取材する内容をまとめたものである。テーマを学校の「あまり知られていないこと」として、知ってもらふ価値があるかどうか判断していた。低学年にでもわかること、情報の送り手の伝えたいことと受け手の知りたいことにギャップがあることなど取材を通して学んだことは多い。



取材の様子

① 理科準備室・校長室

人体模型に取材



ホルマリン漬け



校長室のソファに座って



普段は入ることができない部屋はたくさんある。理科準備室には薬剤や標本、模型など理科の授業で使うものがたくさん保管されていることがわかった。

② 地下室

地下への階段



タンク



配管



地下室はあった。しかし、人が入れる部屋ではなく貯水タンクやたくさんの配管が通っているスペースだった。昼間でも暗く、懐中電灯なしではあるけない。

③ 用務員の先生のお仕事紹介



用務員の栗林先生は、一年間で50か所以上も校舎の壊れた部分を修理している。一番は排水溝のそうじが一番大変だそう。目立たない仕事かもしれないが栗林先生なしでは学校は大変なことになってしまう。

④ クリスマスのほしいもののアンケート

低学年（1年～3年）と高学年（4年～6年）にクリスマスにプレゼントしてほしいものを聞いた。どちらも1位はニンテンドーDS、2位もゲームソフトやゲーム機だった。

<単元を振り返って>

グループにデジタルカメラを持たせ取材させる活動を行った。次ページの新聞がこのグループが作った新聞である。記事を書くのを分担した結果、字体や書き方に個人差が出てしまい統一感がなくなってしまった。しかし、子どもたちが集めたり調べたりしたことを吟味して、記事にした点は評価できる。どんな記事なら関心をもって読んでもらえるかを考えながら活動することで、情報の受け手として身の回りの出来事に関心をもち、知らなかったことを調べたり驚いたりする経験は社会につながる経験になる。



IV 成果と課題

- (1) ワークスペースに新聞を読む場所を特設したことで、子どもの近くに置くことができ、気軽に新聞を読むことができた。また、朝読書の時間にも新聞を読んでいいこととしたため新聞を読む時間が増加した。
- (2) 情報が多い新聞の中から自分の興味のある記事を選ぶ作業（切り抜き）は、情報の取捨選択を行う力を高めることができた。また、テーマをもってスクラップさせたことは継続的に新聞に親しめるという上で有効だった。
- (3) ニュース1つ1つは点のようなものであるが、飯山市に関する記事を集め、地図に落とすことで面になり、認識しやすくなることがわかった。
- (4) 社会で起きていることに少しずつ敏感になってきた。前に記事と関連があることに気付いたり、同じ事件の記事同士を比べ始めたりする子どもでできた。
- (5) 新聞記事を取り上げ、じっくり読んだり考えたりする活動ができなかった。環境問題などは子どもたちでも十分に理解できる内容であるので、今後は直接記事を読んで、そこから考えが広がるような学習を設定していきたい。
- (6) 今年は5年生1学級と6年生1学級のみでの実施であった。低学年ではどのような実践が可能なのか考えていきたい。